

それに比べて、サーガラ龍王の娘が、一瞬のうちに覺りを得ることができるといふことを、誰が信ずるでしょうか？」

その時、サーガラ龍王の娘が現れ、世尊の両足をおしいたいで挨拶し、一隅に立って次の詩を述べた。

「私にとって完全なる覺りは思うがままで、その際、私の証人は如来であります。私は、衆生を苦しみから解き放つ広大な法を説きましよう」

すると、尊者シャーリプトラ (舍利弗) がサーガラ龍王の娘に言った。

「良家の娘よ、あなたが、覺りのために全き心を発し、退転することなく、無量の智慧を具えているとしても、それでも正しく完全に覺った位は得難いのである。良家の娘よ、女性は、努力精進をゆるがせにしないで、幾百、幾千もの多くの劫にわたって諸々の善行をなし、六種類の完成を成就したとしても、今日までブツダの位に達したことはないのだ。理由は何か？ 女性は、今日まで五つの位に到達したことはないからだ。五つとは、第一はブラフマー神 (梵天) の位、第二はインドラ神 (帝釈天) の位、第三は大王の位、第四は転輪王の位、第五は不退転の菩薩の位である」

シャーリプトラらを沈黙させた龍女の成仏

その時、サーガラ龍王の娘は、その価値が三千大千世界に匹敵する一つの宝石を所

有していて、世尊にその宝石を差し上げた。世尊は、憐憫の思いの故にそれを受け取られた。そこで、「智慧の集積を持つもの」という菩薩と、尊者シャーリプトラに言った。

「私が世尊に差し上げたこの宝石を、世尊は速やかに受け取られましたか？」

「あなたは、速やかに差し上げたし、世尊も、速やかに受け取られた」

「大徳シャーリプトラよ、もしも私に卓越した神力があるならば、それよりさらに速やかに私は覺りを得ることでありましよう。しかしながら、それは、この宝石を受け取る人は卓越した神力があるからではありません」

一切世間の人々と、長老シャーリプトラの眼前で、女性の性根がなくなり、男性の性根が現れ、サーガラ龍王の娘は、由來の菩薩である自分を示して見せた。そして、南方のヴィマラー (無垢) という世界に行き、七宝からなる菩提樹の根もとに坐って自ら完全な覺りを開き、三十二種類の勝れた身体的特徴と、八十種類の副次的な身体的特徴のすべてを身に具え、光明によって十方を照らして説法している姿を示した。②

サーハー世界にいる衆生はすべて、その如来が、神々や、龍、ヤクシャ、ガンダルヴァ、アスラ、ガルダ、キンナラ、人間、人間以外のものたちのすべてによって敬礼されながら、説法しているのを見た。

atha tasyaṃ velāyāṃ sāgara-nāgarāja-duhitā sarvaloka-pratyakṣaṃ yady alpaṃ bhadanta Śāriputra mahdhiki syāṃ śighrataraṃ

samyaṃ sambodhim abhisambuddhīya / na cāsyā mañch pratigrāhakaḥ /

sthavirasya Śāriputrasya pratyakṣaṃ tat strīndriyaṃ antarhitam puruṣendriyaṃ prādurbhūtaṃ bodhisattvabhūtaṃ c' ātmānaṃ samdarśayati /

また、その説法を聞いた衆生のすべてが、この上ない正しく完全な覺りにおいて不退転となった。そして、そのヴィマラー世界と、このサーハー世界は、六種類に震動した。シャーキヤムニ世尊の集会にいた三千の衆生は、何ものも生ずることはないという真理を認める知 (無生法忍) を得たし、未來成仏の予言を得た。

すると、「智慧の集積を持つもの」という偉大な人である菩薩と、尊者シャーリプトラは沈黙してしまった。

《デーヴァダッタ (提婆達多)》デーヴァダッタは、釈尊の従弟で、小乗仏教と称された説一切有部などにおいて極悪人とされた。教団の在り方をめぐる五項目に因りて釈尊と対立し、デーヴァダッタが独立した教団を作ったということは歴史的事実であるが、彼を悪人とする傾向は時代を経るに従って著しくなっていた。それは教団維持のエゴイズムに基づくものであり、一種の近親憎悪であると中村元博士は見えておられる。《第三は大王の位…第五は不退転の菩薩の位》この箇所は、鳩摩羅什訳では「三には魔王…五には仏身なり」となっている。

【解説】

この提婆達多品は、デーヴァダッタ (提婆達多) の成仏 (悪人成仏) と龍女の成仏

(女人成仏) を説くものとして、「皆成仏道」を説く『法華経』の思想を補完するものとして後世に付け足された。挿入する箇所として、勸持品の女性への授記の場面の直近を選んだのであろう。

この章は、ファルハード・ベークで発見された写本と、当初の鳩摩羅什訳 (四〇九年) には欠落していた。「ケルン・南条本」、竺法護訳 (二八六年) 等では宝塔品の後半部分になっている。カシヤガル本には第十二章として独立して入っている。現今の『妙法蓮華経』には、鳩摩羅什訳から百年ほどして第十二として追加されている。

デーヴァダッタを極悪人とする傾向は、説一切有部などが有力であった西北インドにおいて顕著であった。中村元著『原始仏教の成立』(中村元選集決定版、第一四卷) によると、当初は「怠けもので如来を悩ませた」という程度だったが、次第にエスカレートし、①アジャータシャトル (阿闍世) をそそのかして父のビンピサーラ (頻婆娑羅) 王を殺害させた、②釈尊の妃ヤシヨダラーを襲い辱めようとした(説一切有部の所伝)、③釈尊は結婚の際の恋敵であった、④象を放ち釈尊を殺そうとした、⑤五逆罪を犯した—などといった伝説が多く語られるようになった。

デーヴァダッタとは無関係に記述されている。デーヴァダッタは、釈尊やヤシヨダラーより三十歳も年下で、二人が結婚する時点では生まれていないので、恋敵になれる

katamāni pañca / prathamam brahma-sthānam dvitīyam śakra-sthānam
tṛtīyam mahā-rāja-sthānam caturtham cakra-varti-sthānam pañcamam
avaivartika-bodhisattva-sthānam //

atha khalu tasyām velāyām sāgara-nāga-rāja-duhitur eko maṇir asti yah
kṛtsnām tri-sāhasrām mahā-sāhasrām loka-dhātum mūlyam kṣamate / sa ca
maṇis tayā sāgara-nāga-rāja-duhitrā bhagavate dattaḥ / sa bhagava-
tā cānukampām upādāya pratigṛhitaḥ / atha sāgara-nāga-rāja-duhitā Praj-
ñākūṭam bodhisattvam sthaviram ca Śāripuṭram etad avocat / yo 'yam
maṇir mayā bhagavato dattaḥ sa ca bhagavatā śigṛam pratigṛhito nēti /
sthavira āha / tvayā ca śigṛam datto bhagavatā ca śigṛam pratigṛhitaḥ /
sāgara-nāga-rāja-duhit' āha / yady aham bhadanta Śāripuṭra maha-rddhi-
kī syām śigṛataram samyak-sambodhim abhisambudhyeyam na cāsyā
maṇeḥ pratigrāhakaḥ syāt //

atha tasyām velāyām sāgara-nāga-rāja-duhitā sarva-loka-pratyakṣam
sthavirasya ca Śāripuṭrasya pratyakṣam tat strīndriyam antarhitam puru-
ṣēndriyam ca prādurbhūtam bodhisattva-bhūtam c' ātmānam saṃdarśayati
tasyām velāyām dakṣiṇām diśam prakrāntaḥ³¹ / atha dakṣiṇasyām diśi
Vimalā nāma loka-dhātus tatra sapta-ratna-maye bodhi-vṛkṣa-mūle niṣaṅ-
am abhisambuddham ātmānam saṃdarśayati sma dvātriṃśal-lakṣaṇa-dhar-
am sarvānuvyañjana-rūpaṃ prabhayā ca daśa-diśam sphuritvā dharma-deś-
anām kurvānam / ye ca Sahāyām loka-dhātau sattvās te sarve tam tathā-
gataṃ paśyanti sma sarvaiś ca deva-nāga-yakṣa-gandharvāsura-garuḍa-
kiṃnara-manuṣyāmanuṣyair namasyamānam dharma-deśanām ca kurvant-
am / (KN. p. 264, l. 11-p. 265, l. 10)

一には梵天王と作ることを得ず。二には帝釈、三には魔王、四には転輪聖王、五には
仏身なり。云何ぞ女身、速やかに成仏することを得ん」と。

爾の時、龍女、一つの宝珠有り。価値三千大千世界なり。持って以て仏に上る。仏、
即ち之を受けたもう。龍女、智積菩薩、尊者舍利弗に謂って言わく、「我、宝珠を獻る。
世尊の納受、是の事疾しや不や」と。

答えて言わく、「甚だ疾し」と。

女の言わく、「汝が神力を以て、我が成仏を觀よ。復、此れよりも速やかならん」と。

当時の衆會、皆、龍女の、忽然の間に變じて男子と成り、菩薩の行を具して、即ち
南方無垢世界に往いて、宝蓮華に坐して、等正覺を成じ、三十二相・八十種好あつて、
普く十方の一切衆生の爲に、妙法を演説するを見る。

爾の時、娑婆世界の菩薩、声聞、天龍八部、人と非人と、皆、遙かに彼の龍女の成
仏して、普く時の會の、人・天の爲に法を説くを見て、心大いに歡喜して、悉く遙かに
敬礼す。(大正蔵、卷九、三五頁下)

つとは何々であるか？ 第一はブラフマー神(梵天王)の位、第二はインドラ
神(帝釈天)の位、第三は大王の位、第四は転輪[王]の位、第五は不退転の
菩薩の位である」

するとその時、サーガラ龍女の娘(龍女)には、その価値が三千大千世界の
全体に匹敵するところの一つの宝石があった。そのサーガラ龍女の娘は、世尊
にその宝石を差し上げた。世尊は、憐憫の思いの故にそれを受け取られた。す
ると、サーガラ龍女の娘は、「智慧の集積を持つもの」(智積)という菩薩と、
尊者シャーリプトラにこのように言った。

「私が世尊に差し上げたところのこの宝石、それを世尊は速やかに受け取ら
れましたか、そうではありませんか」

尊者[シャーリプトラ]が言った。

「あなたは、速やかに差し上げたし、世尊も、速やかに受け取られた」

サーガラ龍女の娘が言った。 *あの宝珠の寶手でなくとも、もしも私が大いなる超自然力(大神力)を持つの*

「大徳シャーリプトラよ、もしも私が大いなる超自然力(大神力)を持つも
のであるならば、[それよりも] さらに速やかに私は正しく完全な覺りを完全
に覺ることでありましょう。しかしながら、[それは] この宝石の受け取り手
が、[大いなる超自然力を持つものであるから] ではないでありましょ³²」

するとその時、一切世間の[人々の] 眼前において、また長老シャーリプ
トラの眼前において、その女性の性器が消えてなくなり、男性の性器が現われ³³、
そして、サーガラ龍女の娘は、自ら真の菩薩である *ことをはっきりと示した。*

その時、その人は南の方へと行った。その時、南方にウイマラー(無垢)と
いう名前の世界があった。[その人は] その七宝からなる菩提樹の根もとに
坐って自ら完全な覺りを開き、三十二種類の[勝れた]相(三十二相)を持ち、

[八十種類の] 副次的な身体的特徴(八十種好)のすべてを身に具えていて、
光明によって十方を照らしてから、説法している[姿を] 示した。 *saṃdarśayati sma*

また、サハー[娑婆]世界にいるところの衆生たち、それら[の衆生たち]
はすべて、その如来が、神々や、龍、ヤクシャ(夜叉)、ガンダルヴァ(乾闥婆)、
アスラ(阿修羅)、ガルダ(迦楼羅)、キンナラ(緊那羅)、人間、人間以外
のもの(非人)たちのすべてによって敬礼されつつ、説法しているのを見た。

paśyanti sma